

「“了”のいる時といらぬ時」の解釈をめぐって —心的走査の観点からの考察—

大島吉郎
(大東文化大学外国語学部中国語学科)

2023年11月18日(土)第26回学術シンポジウム

大東文化大学大学院外国語学研究科中国言語文化学専攻・外国語学部中国語学
科・語学教育研究所中国語分野共催

目次

- 0 はじめに
 - 1 荒川2003:126「“了”について」
 - 2 大島2022に基づく“了1”、“了2”の定義
 - 3 荒川1981の検討
 - 4 荒川2003の検討
 - 5 おわりに
- 参考文献

0 はじめに

- 本発表は、荒川清秀 1981「“了”のいる時といらぬ時」(日本中国語学会『中國語學』228号 (PP.70-79))で提起された問題について、認知言語学の観点から解釈を行おうとするものである。
- 荒川1981は、日本人学習者の立場に立って、“了”がなぜ使われるのか、なぜ使われないのかの問題を指摘する先駆的研究として評価される。

- 荒川1981目次

- 0 はじめに

- 1 過去を表す語があれば“了”はいらないか

- 2 完了を表す語が補語にあれば“了”はいらないか

- 3 文を目的語にとる動詞

- 4 いわゆる兼語式文の場合

- 5 動詞を目的語にとる動詞

- 6 “了”をきらう副詞

- 7 非難を表わす場合

- 8 おわりに

荒川清秀 愛知大学名誉教授(1949.8-2021.8)



- 荒川清秀 2003『一步すすんだ中国語文法』(大修館書店)では「“了”について」(P.126-132)でまず“了”の説明を行い、次にその説明を基に、「“了”がいるとき、いらぬとき」(P.133-138)において、自らの問題提起に対する回答を示している。
- 荒川1981を再録した荒川清秀2015『動詞を中心にした中国語文法論集』(白帝社)(P.360)で、「(前略)わたしは恩師の故香坂順一先生からは中国語の読み方をしっかり教えてもらったが、文法の方法論は教えてもらわなかったと書いたら、後輩の内田慶市氏(関西大学)に「方法論は自分でつかむものです」と言って批判されたことがある。たしかにそうではあるし、その後自分なりの方法論をつかんでいったつもりではあるが、若い時に言語学的な訓練を十分に受けなかったことは、その後の自分の研究方向を大きく左右している。(後略)」と述懐する。恐らく“了”の問題を念頭に置いての記述であろうことは想像に難くない。荒川1981から荒川2003まで実に22年が過ぎているからである。
- 荒川1981を承けた研究に大石敏之1982があり、“了”と文終止の問題について、「文脈」の要素が重要であることを指摘する。木村英樹1997も荒川1981に対する回答としての位置付けが出来る。

1 荒川2003:126「“了”について」

(1) “了1”と“了2”

- 了1、○ 了2
- 動詞＋了
- 否定詞・禁止の副詞・助動詞＋動詞＋“了”
- “了2”の二つの側面
- 二つの“了”と時間補語、○ “了”と“完”

(2) 「“了”がいるとき、いらぬとき」

- ① “了”と文終止
- ② 動詞が結果補語を伴うとき
- ③ 数量詞をともなった目的語が補語“来”“去”の後にくる場合
- ④ “来”“謝謝”
- ⑤ 文を目的語にとる場合
- ⑥ 兼語式の第一動詞
- ⑦ 直前に行われた発言に関する動詞
- ⑧ “了”をきらう副詞
- ⑨ 過去を表す文にかこまれた場合

1.1 荒川1981と荒川2003の対比

表 1-1

| 荒川1981 | 荒川2003 |
|--------------------------|-------------------|
| 1 過去を表す語があれば“了”はいらないか | ⑨ 過去を表す文にかこまれた場合 |
| 2 完了を表す語が補語にあれば“了”はいらないか | ② 動詞が結果補語を伴うとき |
| 3 文を目的語にとる動詞 | ⑤ 文を目的語にとる場合 |
| 4 いわゆる兼語式文の場合 | ⑥ 兼語式の第一動詞 |
| 5 動詞を目的語にとる動詞 | |
| 6 “了”をきらう副詞 | ⑧ “了”をきらう副詞 |
| 7 非難を表わす場合 | ⑦ 直前に行われた発言に関する動詞 |

表1-2

| 荒川1981 | 荒川2003 |
|--------|--------------------------------|
| | ① “了”と文終止 |
| | ③ 数量詞をともなった目的語が補語“来”“去”の後にくる場合 |
| | ④ “来”“谢谢” |

1.2 記述項目に相違点が生じた理由

(1) 荒川1981当時においては“了”に対する定説が確立しておらず、氏自身が明確な語義(意味)分析を行うには至っていなかった。

(2) 荒川2003に至って、定説により“了”を“了1”、“了2”に分け、それぞれの文法的意味の記述(定義付け)が行われることで、記述すべき項目の調整が行われたと考えられる。

(3) 新たな視点による問題提起:

①「“了”と文終止」

③「数量詞をともなった目的語が補語“来”“去”の後にくる場合」

④「“来” “谢谢”」

※③は荒川1981:73-74の記述を独立させたもの。

1.3 荒川2003:126 “了”の定義

1.3.1 動詞の接尾辞としての“了1”：基本的に実現(完了)を表す

動詞、形容詞の後に置かれ、動作、変化、状態の実現を表す

1.3.2 文末に来る語気(助)詞としての“了2”：変化を表す

文末に置かれ、変化(～になる)や変化に気づくことを表す

「かつて“了”は**完了**を表すと言われていたのですが、上の例で言えば、“**买了**”や“**吃了**”はともかく、“**死了**”や“**有了**”、さらには“**晴了**”まで「完了」といえるかどうか疑問です。そこで「**実現**」説が出てきました。これだと“有了”でも、「ある」という)状態の実現で説明できます。しかし、これはことばの定義の問題でもありますから、「完了」という用語を使っても、中身は「実現」のことだと解釈しておけばいいのです。本書では基本的に「**実現(完了)**」という表現を使っています。」(P.127)

※「**実現**」説：劉勳寧1988、大河内康憲1992

1.4 「完了」か「実現」か

「完了」: アスペクトに関わる文法的概念

[開始－進行－完了]

※空間軸[起点－経路－着点](プロトタイプ)に対する時間軸のメタファー・写像関係

地点[前－基点－後] : 時点[過去－現在－未来]

「実現」: “了”の意味論的解釈

[未実現(未然)－実現(已然)]

※「実現」をアスペクトの体系に位置付ける(空間軸に写像する)ことは出来ないのではないか。

「実現」をアスペクトの体系に位置付けるための論拠は、「空間軸」(プロトタイプ)に対する

「時間軸」(メタファー)との写像関係が成立するか否かであると考えられる。

⇒ “**死**了”(変化性動詞)、“**有**了”(状態性動詞)、“**晴**了”(形容詞)などの例をどう体系的に位置付けるか。
大河内康憲1992は「実現体」説を支持。木村1997は「実現」説(劉勳寧1988)を否定し、「完了」説を支持する。

1.5 荒川2003 動詞の分類とアスペクト性

◆“买”、“吃”: 持続性動詞 ⇒「開始－進行－完了」

(1) 我**买了**一斤苹果。 : 買い物始めて、買物を続け、買物を終える⇒終えた

(2) 今天我**吃了一斤**饺子。 : 食べ始め、食べている、食べ終える⇒終えた

◆“死”、“产生”: 変化性動詞 ⇒動詞にアスペクト性は認められない:「事態」として総合的に認知、モダリティとしての解釈が可能化

(3) 我那个朋友**死了十五年了**。 : 話者は亡くなった経緯も把握

(4) 由于经常在一起, 他们之间逐渐**产生了**爱情。(存現文) : 話者は経緯も把握

◆“知道”、“有”: 状態動詞 ⇒動詞にアスペクト性は認められない:「事態」として総合的に認知、モダリティとしての解釈が可能

(5) 我**知道了**她的秘密。 : 経緯を含意

(6) 这十年来中国**有了**很大的变化。(存現文) : 経緯を含意

◆形容詞 ⇒形容詞にアスペクト性は認められない:「事態」として総合的に認知; 動詞と認定できるか⇒「主語」の定義が必要

(7) 这个月只**晴了**五天。

1.6 変化性動詞、状態動詞と“了”の関わり

1.6.1 話者の発話の意図：聞き手に対する心的態度（モダリティ）

1.6.1.1 変化性動詞

(3) 我那个朋友死了十五年了。

(4) 由于经常在一起，他们之间逐渐产生了爱情。

※(3)は事実の描写に止まらず、「報告、(告白)、感慨」のモダリティが窺える。(4)「存現文」は事態(出現・消失)の発生に対する気付き、発見のムード。必ず已然。

1.6.1.2 状態動詞

(5) 我知道了她的秘密。

(6) 这十年来中国有了很大的变化。

※(5)は事実の描写に止まらず、「報告、告白、感慨」のモダリティが窺える。(6)「存現文」(出現・消失)は事態の発生に対する気付き、発見のムード。必ず已然。

2 大島2022に基づく“了1”、“了2”の定義 表2

| 了1 | 了2 |
|--|--|
| <p>1 アスペクト助詞(動態助詞): 標識</p> <p>※「標識」としての“了”の意味: アスペクト(「地」)を「プロファイル」し、「図」としての「完了」に焦点を当てることを目的に、動作のプロセスに対し「心的走査(mental scanning)」を行う／行ったことを示す記号</p> <p>2 完了: [開始－進行－完了]</p> | <p>1 モダリティ助詞(語気助詞): 標識</p> <p>2 話者のある何らかの「モダリティ」を示す記号</p> <p>※①“怎么了?”(予期しない事態に直面し、「驚き・訝り・説明の要求」などを表す問いかけ⇔“怎么?”); ②“知道了。”(相手の置かれている状況、事情を汲み取り、相手から求められる行動を起こそうとする返答⇔“知道。”); ③“好了, 好了。”(納得していない相手に対し、なだめすかし、納得させ、一旦この場を納めようとする反応⇔“好, 好.”); ④“糟了!”(望ましい結果を得ようと努めていたにも関わらず、予期に反してひどい結末となってしまったことに対する表明、嘆き⇔“糟糕!”)</p> |
| <p>(1) 心的走査による事態把握: 心的走査の標識</p> <p>(2) 現場立脚型視点</p> <p>(3) 個別の動作、行為の過程を踏まえての発話</p> <p>(4) 「完了」を示すためには「起点・経路」が含意される</p> <p>(5) 事態発生時現在(過去・現在・未来)</p> <p>※“他吃了饭”が文として完結しないのは「事態発生時現在」が特定されない為と考えられる。大石1982、木村1997:172、高橋1999参照。⇒「文脈」依存: 非日常的な出来事を伝える場面であれば文として成立すると指摘</p> | <p>(1) 心的走査による事態把握: 心的走査の標識</p> <p>(2) 俯瞰型視点</p> <p>(3) 全体的な事態の推移、経緯を踏まえての発話</p> <p>(4) 話者の心的態度(モダリティ)を示すためには文脈、背景、理由が含意される</p> <p>(5) 発話時現在</p> <p>※三宅2010:196参照。“小王快要来了。”「本来已然義であるはずの“了”が、未来の未然の状況にも用いられるとしてこの枠(「もうすぐ～する」)を捉えるのは正確ではない。」</p> |

2.1 「心的走査(MENTAL)」とは

辻幸雄編 2013:185『新編認知言語学キーワード事典』

「静態的な場面に含まれる物体の形状などを捉える際に、われわれ概念化者(概念主体)はその形状を心的にたどっている。この作用のことを「心的走査」と呼ぶ。(中略)他に心的走査に関わる表現としては、ある物体の位置を特定するための経路を心的にたどる場合もある。(中略)さらに、物体や位置よりも抽象的な概念において心的走査が生じる場合がある。AS BODY SIZE INCREASES, THERE ARE FEWER DISTINCT SPECIES(体のサイズが大きくなるにつれ、種の分化は小さくなる)／AS BODY SIZE DECREASES, THERE ARE MORE DISTINCT SPECIES(体のサイズが小さくなるにつれ、種の分化は増える)(LANGACKER1999B:208)のようにカテゴリ間の関係に対し心的走査を行うことにより、一種の主観的変化が描写されることもある。」

本発表は、中国語のアスペクト(開始一進行一完了)を表す“了1”、事態の推移・変化(発生一過程一到達)に対する話者の認知を表す“了2”に対して、心的走査の視点を適用することで、合理的解釈を試みる。(中国語における心的走査は、表現を変えて一般化すれば、中国語話者の「目配り・気配り・観察・注意力」と称することもできるのではないか:言語文化的解釈)

2.2 「モダリティ」とは

大河内康憲 1975 「“是”のムード特性」、『大阪外国語大学学報』第33号：白帝社『中国語の諸相』1997
所収 (PP.27-52)

「話者が客体的事実の外から加える判断の表明、題述的主張の表明」(P.48)

「(前略)さきに“只是……罢了”の関連用法に触れたが、一般に中国語で文末とのイディオマティックな関連が指摘されているものは、ほとんどモーダルなものと考えてよい。たとえば次のようなものである。

不过……罢了 像……似的 不是……么 难道……么 必须……才好 可不……么
非……不可 大概……吧 当然……了」(P.41)

「これらの関連用法は**推量**、**反語**、**必要**などを示すものは多いが、“是……的”もやはりこの一種である。これが強調を示すというのは、この関連用法によってもたらされる**積極的な肯定判断**があるからであって、それは当然“是”だけ、“的”だけでもよい。」(P.42)

3 荒川1981の検討

1 過去を表す語があれば“了”はいらないか

“了1”・“了2”：「“了”の有無を問題とする場合、その文が単独であらわれているか、それとも、段落とか文章といった文以上の単位の中にあるかということをもぎに考えられないということである。(中略)“很”も“了”と同じく、**文成立のムードにかかわるものではないか**と筆者は考えている。」(P.72)

[4] ??昨天我们去人民公社。 ⇔ [4]’ 昨天我们去人民公社**了**。

2 完了を表す語が補語にあれば“了”はいらないか

複文の従属節中の“了”は、語彙的に完了的な意味を持った語(例えば“完、成、到、好”など)が補語になれば、動詞接尾語の“了”は省略できるが、主節では、やはり何らかの意味で文終止にかかわる“了”が必要。(P.72-73)

[13] 见到 [] 他, 替我问个好。 ⇔ [15]’ 我终于作完**了**练习。

[22] 昨天我买到 [] 一张电影票。([] : “了”の有無を問題にする箇所)

3 文を目的語にとる動詞

「文を目的語にとる動詞に“了”が見つからないということは、1で論じた問題につづじるものがある。というより、“了”がないことが、文が目的語になるということを保証していると言えるのではないか。」(P.74)

[37]’ *刚才, 我看见**了**他买**了**一张世界地图。 ⇔ [40] 我看到他的床上连被子也没有。

4 いわゆる兼語式文の場合

「(I)N1(人)+V1(動詞)+N2+V2 の文型(中略)では、一般にV1には“了”がつけられず、つけられるものは、“派”や“请”等ごく少数である。

[47] 我已经派 [了] 人去叫他了。

[48] 我们请 [了] 一个老工人来做报告了。

(中略)

[60] 他让我也去。

[61] 他叫我也去。

はどちらも、“让”“叫”を具現化する動作(行動とか言語)が完了しているのである。」(P.75)

5 動詞を目的語にとる動詞

「いったい、動詞を目的語にとるといっても、そこにはいくつかのレベルの差があるようだ。最も典型的なのは、

[64] 喜欢吃。

[65] 练习说。

[65] 学游泳。

のように動詞と動詞が緊密に結びついて、あいだに他の要素をはさむことが全くできない(中略)。ともかく、以上の例ではどれも最初のVに“了”を置けないのである。」(P.76)

6 “了”をきらう副詞

「過去を表す文に使われながら“了”との共起をきらう副詞がある。その一つは“才”で、(中略)もう一つは“刚”[~したばかりだ]で、(中略)とはいえ、“才”“刚”が“了”との共起をきらう理由について、筆者は、まだ明確な答えをもっていない。」(P.76-77)

[78] 我现在才知道(了)。

[79] 到了第七天，他才找到(了)这个人。

([81] *他刚才来。 → [81]' 他刚才来了。)

[84] 他刚看(了)电影。(房玉清1980)

[85] 他刚回来(了)一会儿。(房玉清1980)

7 非難を表わす場合

「相手の近い過去の動詞に対し、非難をこめていう時、“了”なしでいわれることがある。

[86] 他咬着牙，悻悻地小声骂了一句：“讨厌！”“你说什么？”

[88] 二伯打断他的话：“你胡说！”

(中略)伝達は それを受けた人にとってはまだ働いているので、それで現在時制が許されるのである。」(P.77)

4 荒川2003の検討

① “了”と文終止

「(前略)

△ 我吃了饭。

というのは、一般にこれだけでは文が終わらないとされます。一つは、

・ 我吃了饭了。

のように文末に変化の“了”をつけて文を終わらせるやり方。もう一つは、

・ 我吃了三碗饭。

のように、目的語になんらかの数量限定語をつけて、ある一定量の動作が行われたことを示すやり方です。

終わらないなら別の語を足して続けてやるという方法もあります。たとえば、

・ 吃了饭就走吧。

・ 吃了饭再走吧。

のように。(後略)」(P.133)

※“我吃了饭。” “了1”:[+事態発生時現在]を確定できる情報を欠くため、独立文として不適格。この文が成立するためには(特別な、非日常的、予期せぬ事態の発生を言外に含む)「文脈」(話者による[+心的走査]:**既知・已然情報**)が必要。高橋1999:20-32に詳細な分析

“我吃了饭了。” :この文がOKであるのは“了2”が[+心的走査][+発話時現在]であるため。

“我吃了三碗饭。” :“三碗”によって[+心的走査][+事態発生時現在]を確定できるため。

② 動詞が結果補語を伴うとき：荒川1981の編集（省略）

③ 数量詞をともなった目的語が補語“来”“去”の後にくる場合

「（前略）動詞が複雑方向補語をとり、数量詞をともなった目的語が“来”“去”の後にくる場合もしばしば“了”をともなわずに使えます。

- ・ 他从图书馆借回来一本杂志。（彼は図書館から雑誌を一冊借りて帰ってきた。）
- ・ 他从书架上拿下来几本书。（彼は本棚から本を何冊かとった。）」（.135-136）

※「複雑方向補語」の使用により話者の[+心的走査]の実行が確認できる。“一本杂志”、“几本书”は動作の結果による「出現」を表している（「存現文」の範疇と重なる）ため、述部が既知・已然情報を示す。“了¹”を使用すると余剰な情報となり使用されない。

④ “来”“谢谢”

「(前略)“谢谢”がつくる文も“了”ぬきででてくるものがあります。

- ・ 谢谢你特意来送我。(わざわざ見送りにきてくれてありがとう。)
- ・ 谢谢你来特意接我。(わざわざ迎えにきてくれてありがとう。)

これはまだ“送”や“接”といった動作が「進行中」で終わっていないからです。

- ・ 谢谢你提醒(了)我。(ご忠告ありがとう。)

などは、あってもなくても大丈夫です。すでに過去のことでなければ“了”は用いなくてかまいません。しかし、つぎのように、はっきり過去のことなら“了”がいます。

- ・ 谢谢你救了(了)我的命。(命を助けてくださってありがとう。)
- ・ 谢谢你给了我这么大的帮助。(わたしをこんなに助けてくださってありがとう。)」(P.136)

※上の例で“谢谢”の後に“了₁”を用いない理由：“谢谢”が[一心的走査]であるため。文末に“了₂”を置き、行為全体に対する俯瞰的認知[+心的走査]として発話することは可能。“谢谢你提醒(了)我。”“了”の有無は結果のみを言う([一心的走査])か、それとも[+心的走査]として言うかの違いと考えられる。「過去か否か」の問題として捉えるのは学習者に混乱を与える。

- ⑤ 文を目的語にとる場合：荒川1981の編集(省略)
- ⑥ 兼語式の第一動詞：荒川1981の編集(省略)
- ⑦ 直前に行われた発言に関する動詞：荒川1981の編集(省略)
- ⑧ “了”をきらう副詞：荒川1981の編集(省略)
- ⑨ 過去を表す文にかこまれた場合：荒川1981の編集(省略)

5 おわりに

荒川清秀1981(及び荒川2003)によって提起された“了”の問題をどう解決するか、本研究は[±心的走査]を意味素に立て、認知言語学からの解釈を試みた。(アスペクトとは: +プロフィール・+心的走査)

日本人学習者にとって“了1”、“了2”の理解と運用が困難に感じられるのは、日本語にはこれに相当する語が無い、すなわち[±心的走査]の認知行動の範囲にズレが見られるからなのではないかと本研究は考える。この仮説の検証は今後の研究に委ねることとする。

荒川2003:131で述べている「“了2”の二つの側面」、例えば、

吃饭了。(ご飯だよ／ご飯を食べた)

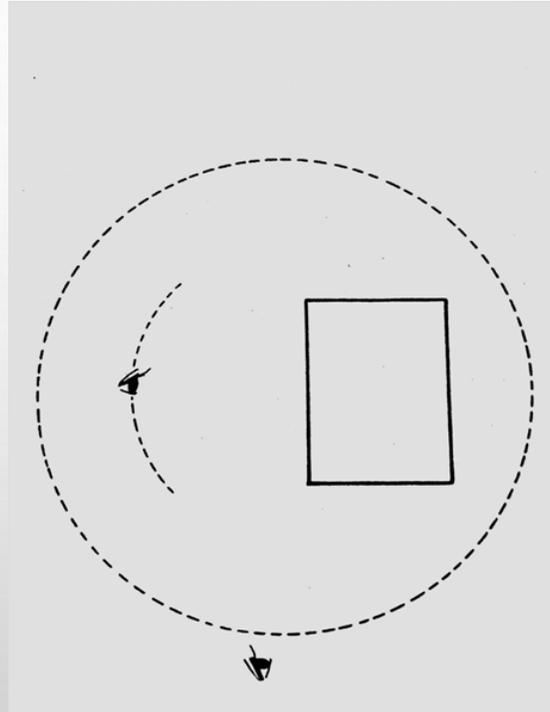
休息了。(休憩だよ／休んだ)

下雨了。(雨だ。雨が降ってきた／雨が降った)

麻烦你了。(お世話になります。お願いします／お世話になりました)

これらの例に見られる多義性の解釈については「地」と「囟」の関係(プロファイリング)、[±心的走査]の視点からの解釈が可能であると考え、機会を改め考察することにしたい。

四角[動作:事態]見る(“了1”:認知)視点と、それ(円の中)を[事態:状態]として見る視点(“了2”:メタ認知)「自己の視点を含んだ世界を見ること」(宮崎清孝・上野直樹1985:82『認知科学選書1視点』、東京大学出版会より引用)



参考文献

日本語文献

- 荒川清秀 1981 「“了”のいる時といらぬ時」、日本中国語学会『中国語學』228号 (PP.70-79)
- 1991 「中国語入門第5回 テンスとアスペクト」、大修館書店『中国語』8月号 (PP.17-21)
- 2003 『一步すすんだ中国語文法』、大修館書店
- 2010 「“了”をいかに教えるか」、中国語教育学会『中国語教育』第8号 (PP.1-17)
- 2015 『動詞を中心にした中国語文法論集』、白帝社
- 今井むつみ・秋田喜美 2023 『言語の本質—ことばはどう生まれ、進化したか』、中央公論社
- 大石敏之 1982 「“了”と「文終止」について」、『中国語學』第229号 (PP.32-36)
- 大河内康憲 1975 「“是”のムード特性」、『大阪外国語大学学報』第33号: 白帝社『中国語の諸相』1997所収 (PP.27-52)
- 1992 「実現体としての「了」」、大修館書店『中国語』3月号 (PP.34-37)
- 大島吉郎 2023 「中国語における空間の文法化に関する研究(初稿)—“了1、了2”の文法的意味を中心に」、大東文化大学大学院外国語学研究科中国言語文化学専攻『中国言語文化学研究』第12号 (PP.89-108)
- 大西克也 2023 「上古中国語のモダリティ助詞「矣」について」、日本中国學會『日本中国學會報』第75集 (PP.257-272)

木村英樹 1977 「「了」と「文終止」の問題をとりあげて」、日中学院編『TONGXUE』第4号 (PP.30-33)

———— 1997 「動詞接尾辞“了”の意味と機能」、『大河内康憲教授退官記念 中国語学論文集』、東方書店 (PP.157-179)

———— 2012 『中国語文法の意味とかたち—「虚」的意味の形態化と構造化に関する研究—』、白帝社

高橋弥守彦 1999 「“我看了书”は非文と言えるだろうか」、日中対照言語学会『日中言語対照研究論集』創刊号 (PP.13-49)

———— 2002 「2つの“了”について」、日中対照言語学会編『日本語と中国語のアスペクト』白帝社 (PP.165-228)

辻幸雄編 2013 『新編認知言語学キーワード事典』、研究社

前田恭規 2022 「動量詞とアスペクト無標識完了表現」、『中國語學』第269号 (PP.35-55)

三宅登之 2010 「日本語との対照から見た中国語のアスペクト」、東京外国語大学『語学研究所論集』第15号 (PP.193-213)

中国語文献

- 陈前瑞 2005 句尾“了”将来时间用法的发展、《语言教学与研究》第1期(66-73)
- 范晓蕾 2021 《普通话“了1”“了2”的语法异质性》、北京大学出版社
- 房玉清 1980 从外国学生的病句看现代汉语的动态范畴、《语言教学与研究》第3期(4-23)
- 2008 《实用汉语语法(第二次修订本)》、北京语言大学出版社
- 金立鑫 2003 “S了”的时体意义及其句法条件、《语言教学与研究》第2期(38-48)
- 孔令达 1994 影响汉语句子自足的语言形式、《中国语文》第6期(434-440)
- 李兴亚 1989 说说动态助词“了”的自由隐现、《中国语文》第5期(334-340)
- 李勋宁 1988 现代汉语词尾“了”的语法意义、《中国语文》第5期(321-330)
- 萧国政 2005 现代汉语句末“了”意义的析离、《汉语语法的事实发掘与理论探索》湖北人民文学出版社(318-326)
- 徐雨棻 2017 “谢谢了”“对不起了”的语用特征、『杉村博文教授退休記念中国語学論文集』、白帝社(138-145)

ご清聴ありがとうございました